

平成25年度10月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成25年10月11日（金）午後1時30分～午後2時

場所 市役所2階第4委員会室

出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. 話題提供（3項目）

1 「キリンが街にやって来た」イベントについて

- 平成21年10月に釧路市動物園からキリンがいなくなって、4年の時が経ちましたが、この度、市民の皆さんが待ち望んだキリンがついにやって来ました。
- 10月10日午前9時から、動物園のキリン舎前におきまして、贈呈式が行われチャイルズエンジェルの皆さまから、キリン「スカイ」の寄贈を受け、10月12日から皆さんに公開することとなります。
- 贈呈式典では、阿寒幼稚園園児の呼びかけに応え、スカイ君が跳ねるように登場し、園児の黄色い歓声を浴び、何とも感動的なシーンでした。
- キリン舎周辺の整備やキリン観覧席の設置など、合わせて寄贈を受けたところでございます。心から感謝申し上げます。
- 昨年4月に、小さなお子さんの「なんで動物園にキリンがないの？」という何気ない一言から、釧路の未来を担う子どもたちにキリンを見せてあげたい、という一念でチャイルズエンジェルが結成され、多くの市民や企業の皆さまの思いが結集されました。
- この度のチャイルズエンジェルの皆さんの活動を聞いて感銘した、直木賞作家の志茂田景樹さんが、絵本「キリンが来る日」に続き、「ぼくらの街にキリンがやってくる」というノンフィクション本を出版されるということで、10月10日には出版会見が行われました。
- この本では、釧路の主婦仲間が、キリンがない動物園を知り、仲間たちでお小遣いを出し合い、キリンを買って贈ろうとする話が持ち上がったが、キリン購入の難しさを知り、挫折しそうになりながらも仲間を増やし、キリン募金を立ち上げ、5,000万円を超える募金を集め、自ら行動して、キリンの調達などの難題を次々と解決していくエンジェル20名のヒューマンドキュメントとして克明に描かれ

たものであり、市内の書店でも10月10日から発売されているとのこと。

- このような自分の街をこうしたい！とするチャイルズエンジェルの皆さんの想いやその取り組みに賛同・協同した「市民力」が、私たちの街に息づいていることを、心から誇りに思うところでもあります。
- また、10月12日からのイベントは、14日までの3日間にわたり、釧路の保育園、幼稚園や小中学校などの子どもたちを中心とした踊りや音楽演奏など12団体がステージイベントを披露します。
さらには、釧路のご当地グルメのザンギやラーメンの飲食コーナーや子ども縁日などのお祭り広場など、チャイルズエンジェルの皆さんがプロデュースした、ご家族で一日楽しめる内容が盛りだくさんであります。
多くの市民の皆さん、特に子どもさんに、ぜひ動物園に足を運んで、念願のキリンをはじめ、多くの動物たちの姿を見てほしいと願っております。
- なお、14日の午後1時40分からは、釧路市観光大使である「ヒートボイス」のお2人が、ステージショーのおおとりで「天使のキリン、ぼくらのキリン」を歌って、動物園を大いに盛り上げていただくこととなっておりますので、こちらも期待しております。
- キリンのスカイ君の来園をきっかけに、チャイルズエンジェルの皆さんの願いである、「釧路市動物園に多くの子どもたちや家族、さらに全国の人々が来園し、笑顔が絶えない日本を代表する夢の動物園の実現」に向け、市民の皆さま方と一緒に取り組んでいきたいと考えております。

2. 姉妹都市・観光交流都市への訪問について

- はじめに、鳥取県鳥取市と秋田県湯沢市との姉妹都市提携50周年記念式典を去る10月5日（土）午前10時から、市民文化会館大ホールにおきまして開催いたしました。
- 鳥取市からは、竹内市長様をはじめ、16名の皆さま、湯沢市からは、齊藤市長様をはじめ、20名の訪問団の皆さまをお迎えして、多くの釧路市民をあわせ、約600名の方の参加を頂き、盛大に開催することができました。
- 今回の記念式典は、子どもたちとともに開催した式典としました。まず、北陽高校吹奏楽局の演奏で開会し、市内の鳥取小学校と鳥取中学校の児童生徒とともに入場し、これら約100名（北陽高49名、鳥取小17名、鳥取中35名の計101名）

の子どもたちと一緒に、「今日まで育ててきた結びつきを礎に友好交流の輪を次代に引き継ぐこと」を調印書の提携により誓うことができ、感激をしたところであり
ます。

- また、式典の後に行いました交流の夕べのオープニングでの江南高校の蝦夷太鼓部の17名の勇ましい演奏は、会場のみなさんの心に響くものでありました。「マリモハイボール」での乾杯ではじまり、最後には唱歌「ふるさと」を会場の皆さんで合唱し、それぞれの地域に想いをはせる中、無事終えることができました。
- この後は、10月18日から20日の日程で、鳥取市に公式訪問団15名と市民訪問団28名の計43名を派遣いたします。別に鳥取報恩会で25名が合流する予定です。併せて、17日には「観光交流都市の岡山市」を訪れる予定としております。
- 岡山市、鳥取市のそれぞれで歓迎のレセプションが予定されており、市民訪問団の皆さんと交流を深めてまいりたいと考えております。
- また、鳥取市では、「全国都市緑化とっとりフェア」が開催されている会場内において、姉妹都市提携50周年を記念した記念式典を行い、「記念植樹」【アズキナシ（ナナカマド属）】をする予定となっております。
- 姉妹都市及び観光交流都市として、これまでの交流により培った強い絆を、次の世代に引き継ぎ、なお一層の交流を図りながら、お互いの市の発展に結びついてほしいと願っております。

3. 日越友好年記念セミナー in くしろの開催について

- 「日越友好記念セミナー in くしろ」について、説明させていただきます。
ベトナム社会主義共和国と日本は、昭和48年9月21日に外交関係を樹立し、今年で40周年の節目の年を迎え、本年は「日越友好年」と定められております。
- 釧路市では、平成14年度から釧路コールマイン株式会社におきまして、炭鉱技術研修事業を実施してきており、今年で12年目を迎えました。この間、ベトナムの研修生と市民交流が行われ、友好を深めてきております。
- また、平成22年には、在北海道釧路市ベトナム社会主義共和国名誉領事館が開設され、より一層の友好関係を築かせていただけてきております。

- このような経済連携や文化交流などから、両国の更なる友好関係の継続のために、10月22日(火)午後1時30分から、釧路プリンスホテル2階鶴の間において、ベトナム社会主義共和国特命全権大使 ドアン・スアン・フン閣下をお迎えして、「日越友好年記念セミナー in くしろ」を開催することとなりました。
- セミナーは、石炭エネルギーセンター会長で電源開発株式会社相談役の中垣喜彦氏に、「エネルギー分野の石炭の役割」とする基調講演をいただき、引き続き、釧路公立大学地域経済研究センターの佐野センター長がコーディネーターを務めて、「未来につなげるベトナムとの交流」とするパネルディスカッションを開催いたします。参加は無料となっておりますので、多くの市民の方々の参加をお願いするところです。
- また、終了後の午後3時30分からは、共催する北海道から高井副知事にもご出席をいただいて、レセプションを開催する予定としております。

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ TPPについてお聞きしたいのですが、いろいろと新しい情報が出てきていますが、現状での市長としての意見、展望をお聞かせください。

(市長)

- ・ 基本的には、北海道、道内市町村がともに学んでいながら、道民合意が取れなければ参加すべきではないとのスタンスに基づいて、しっかりと進めていってほしいと思っています。国会決議は、重いものであると考えております。

(質問)

- ・ 何か行動に移すことは考えていますか？

(市長)

- ・ 今後の動き次第では、検討していかなくては思っていますが、現状ではまだ予定はありません。

(質問)

- ・ JRでは、11月から減速減便が始まりますが、一連の問題等で企業の体質等が問われているところです。市長としてJRについてどう思われるか、また減速減便についてどう考えているか、お聞かせください。

(市長)

- ・ JRに関してはニュースを見る度に大きな課題が出てきて、困ったな、と思っています。以前、支社長とお話しする機会があった際、しっかりとした対応をとっていただくよう伝えました。

直さなくていけないところは直さなければならないですが、悪いところを指摘してばかりもどうかと思います。JRは北海道内の交通機関として必要不可欠です。良い方向へと進んで行っていただかないと大変なことになると思います。

悪いものを悪いということは決して間違っていないですが、あまりにも偏った意見をぶつけるということはよくないと思っています。JRには真摯に対応していただきたいです。北海道にとっては大きな役割を担う交通機関ですので、そのところは冷静にしっかりと対応することが重要だと思っています。

(質問)

- ・ 道東の拠点の釧路としては、JRからまた、改めて報告があるまで落ち着いて見守るというスタンスでいくということでしょうか？

(市長)

- ・ 落ち着いて見守るというより、今のタイミングではJRの方たちの対応と改善を期待しています。

(質問)

- ・ 減速減便に伴って、代替案として普通列車など、なんらかの対応があると考えられますが、それを含め、要望などの考えはございますか？

(市長)

- ・ 北海道のスケールメリットを出すためには、移動時間の短縮が必要だと考えています。北海道の公共交通機関として、JRの果たすべき役割としては、しっかりと地方をつなぐということと、時間の短縮、つまり高速化だと思います。そのような観点でしっかりと進めていただきたいと考えています。

(質問)

- ・ 定例市議会が終わり、副市長・特別職の人事が確定しました。それに伴い、商工会議所の専務理事に関連する人事が内定したとのことですが、来年4月の定期人事への影響も踏まえて、今回の体制の意義、また4月人事への懸念などがありましたらお聞かせください。

(市長)

- ・ 全体的な人事体制を作っていくのは、4月1日というのが一般的であると考えていますが、選挙や合併等の影響で今のタイミングでの人事となりました。現状では、

来年の4月も踏まえて進めているところです。

(質問)

- もう少し具体的に新しい副市長、教育長に対して、これから期待すること、配置する意義などをお聞かせください。また、現総合政策部長が商工会議所の専務理事に内定したということですが、11年ぶりの専務理事の交代ということで市長としてどのように期待しているのか、お聞かせください。

(市長)

- 新副市長については、行政法の分野を非常に熟知しており、産業部門にも明るくトータルの政策分野での活躍を期待しております。
新教育長については、学校教育部長としてしっかりと学校など各関係機関と連携をして、業務を進めていただきました。引き続き、教育長としての活躍を期待しています。
- 総合政策部長は、市の中でさまざまな分野で活躍していただいている方で、市にとっては非常に重要な方です。経済界の中で連携をしっかりと取りながら、いろいろ進めていただけると考えており、市として推薦させていただきました。